

# Wonderful My City!

地形、交通、歴史、文化…… **青森**の全て!



### 龍飛崎

津軽海峡側から見た、津軽半島最先端の龍飛崎。手前の岩場(写真中央右下)は帯島で、その陸側にあるのが龍飛漁港。龍飛崎は中期中新世の火成岩(竜飛安山岩類)からなる。写真中央右の崖には、日本唯一の階段回廊339号がある。写真中央(駐車場左)は青函トンネル本州側の工事基地跡で、現在は青函トンネル博物館。斜坑も見学できる。この岸の地下を青函トンネルが走っている。



### 十和田湖

青森県と秋田県にまたがる十和田湖を北面から望む。標高約400mに位置し、面積は61.1km<sup>2</sup>。約20万年前に始まった十和田火山の活動は、約4万3000~1万3000年前に大規模噴火を数回起こし、約1万5000年前には最大径11kmの第一カルデラが誕生。ここに雨水が貯まったのが十和田湖の始まりだ。約8000年前の水蒸気爆発で新たなカルデラを生じ、これが中湖(写真右奥)となった。奥入瀬渓流は、写真左奥あたりを流れている。



### 十三湖

津軽平野北部の十三湖を東側から見る。十三湖は南北約7km、東西約4km、面積約31.4km<sup>2</sup>と青森県では3番目に大きい湖だ。海岸線の一部分が海とつながる汽水湖で、アマゾンが生態する。十三湖は約7000年前、高文海流(海水面上昇)により温分の高い海水が形成されたことに起因し、その後の海水面低下、河川流入による主砂の堆積で水深が浅くなり、約1000年前、汽水環境が成立したと考えられている。



### 青森空港

西側から見た青森空港。パイロットいわく「西風の強い空港」で、標高約200mの山頂を切り開いて1984(昭和59)年に開港。当時は写真左奥の岩場に広がる危岩地が滑走路(1200m)だったが、怪状を繰り返すために1997(昭和72)年に岩盤移転に移転(滑走路は2000mに延び)。その後も改修を重ね、滑走路は3000mにまで延伸した。右で水を入るのは、浪岡川支流の王会魚沢(わいげいざわ)川に建設された浪岡(なみわか)ダム。

日本の各県の地形や地質、歴史、文化、産業など多彩な特長と魅力を、地図を読み解きながら紹介するマップエンターテインメントシリーズ。

待望の**青森**です。

行って確かめてみたくなる情報が満載!

**2021年  
9月中旬  
発売予定**

## 青森のトリセツ

B5変型判・128ページ  
定価：1,980円(税込)

地図で読み解く初耳秘話

# 青森のトリセツ

十和田湖、下北半島、岩木山…火山が生んだ絶景の謎や古代からの人々の暮らし、産業史、鉄道&青函連絡船まで深掘り解説!

昭文社



昭文社

裏面の注文書でご発注ください

# 大地の記憶と歴史を図解で知る！ 青森のエッセンスを詰めた一冊

## Part 1 地図で読み解く青森の大地

津軽富士と称される美しい岩木山は  
荒々しい火山地形を残す活火山

## Part 2 青森を駆け抜ける鉄道網

冬は石炭炊きのストーブ列車！  
ローカル私鉄・津軽鉄道の魅力

### 火山

#### 津軽富士と称される美しい岩木山は 荒々しい火山地形を残す活火山

予子野ひい(新子野)が美しい岩木山だが、じつは熱い火山の地形を残している活火山だ。現在、24時間の監視が行われている。

青森県の最高峰である岩木山(標高1862m)は、津軽半島の南端に位置し、おおむね四方山な地形で、平野に囲まれた山頂部を、美しい予子野谷川(予子野川)が流れている。予子野川は、予子野谷川(予子野川)から「津軽富士」として親しまれており、その山頂部には、予子野川(予子野川)の源流がある。予子野川は、予子野谷川(予子野川)の源流である。予子野川は、予子野谷川(予子野川)の源流である。予子野川は、予子野谷川(予子野川)の源流である。



岩木山(標高1862m)は、津軽半島の南端に位置し、おおむね四方山な地形で、平野に囲まれた山頂部を、美しい予子野谷川(予子野川)が流れている。予子野川は、予子野谷川(予子野川)から「津軽富士」として親しまれており、その山頂部には、予子野川(予子野川)の源流がある。予子野川は、予子野谷川(予子野川)の源流である。予子野川は、予子野谷川(予子野川)の源流である。

予子野谷川(予子野川)は、予子野谷川(予子野川)の源流である。予子野川は、予子野谷川(予子野川)の源流である。予子野川は、予子野谷川(予子野川)の源流である。予子野川は、予子野谷川(予子野川)の源流である。

### 津軽鉄道

#### 冬は石炭炊きのストーブ列車！ ローカル私鉄・津軽鉄道の魅力

大正期に開通した津軽鉄道は、赤子乗降のため行われた「赤子列車」のイメージが強い。春や秋も観光列車を運行し、今や人気のローカル私鉄に大躍進!

津軽鉄道は、津軽半島の津軽五所川原(五所川原)から津軽五所川原(五所川原)まで、約100kmの路線を走る。津軽鉄道は、津軽半島の津軽五所川原(五所川原)から津軽五所川原(五所川原)まで、約100kmの路線を走る。津軽鉄道は、津軽半島の津軽五所川原(五所川原)から津軽五所川原(五所川原)まで、約100kmの路線を走る。



津軽鉄道の魅力は、冬に運行される「石炭炊きのストーブ列車」にある。この列車は、津軽半島の津軽五所川原(五所川原)から津軽五所川原(五所川原)まで、約100kmの路線を走る。津軽鉄道は、津軽半島の津軽五所川原(五所川原)から津軽五所川原(五所川原)まで、約100kmの路線を走る。

## Part 3 青森で動いた歴史の瞬間

豊かな自然のもとで生まれ  
1万年にわたり続いた縄文文化

## Part 4 青森で育まれた産業や文化

船上に車両を載せて海を渡る！  
青森～函館をつないだ青函連絡船

### 古代史

#### 豊かな自然のもとで生まれ 1万年にわたり続いた縄文文化

青森県には多くの縄文遺跡が存在し、とりわけ三内丸山遺跡は、縄文時代の人の暮らしを伝える重要な遺跡である。

縄文時代は、約1万年にわたり続いた。縄文時代の人は、豊かな自然のもとで暮らし、狩猟採集を営んでいた。縄文時代の人は、豊かな自然のもとで暮らし、狩猟採集を営んでいた。縄文時代の人は、豊かな自然のもとで暮らし、狩猟採集を営んでいた。



縄文時代の人は、豊かな自然のもとで暮らし、狩猟採集を営んでいた。縄文時代の人は、豊かな自然のもとで暮らし、狩猟採集を営んでいた。縄文時代の人は、豊かな自然のもとで暮らし、狩猟採集を営んでいた。

### 青函連絡船

#### 船上に車両を載せて海を渡る！ 青森～函館をつないだ青函連絡船

青函連絡船は、青森県と北海道の間の航路を結ぶ唯一の鉄道連絡船だ。甲板上に列車を載せる車両列車も行い、物ももった80年間の歴史を誇る。

青函連絡船は、1900年に開通した。この船は、青森県と北海道の間の航路を結ぶ唯一の鉄道連絡船だ。甲板上に列車を載せる車両列車も行い、物ももった80年間の歴史を誇る。



青函連絡船は、1900年に開通した。この船は、青森県と北海道の間の航路を結ぶ唯一の鉄道連絡船だ。甲板上に列車を載せる車両列車も行い、物ももった80年間の歴史を誇る。

誌面より一部抜粋 ※表紙と誌面は製作途中のものです。

<h3>商品名</h3> <h1>青森のエッセンス</h1> <p>定価：1980円(税込) ISBN9784398148377</p> <p>株式会社昭文社 営業部 FAX 03-5625-4179 TEL:03-5625-4167</p>	<h3>ご注文数</h3>	<h3>貴社番線印</h3>
<p>部</p> <p>ご注文日： 年 月 日</p>		